



出発に当たり水俣駅頭でご詠歌を合唱する患者家族

“静かに訴えたい”

水俣病 患者家族、総会に出発

二十六日大阪で開かれるチツソ株式会社（石炭専社長）の株主総会に出席するため水俣病患者家族十四人が二十四日午後十時三十九分水俣駅発特急「きりしま」で出発した。総会に出席するのは同日水俣から大阪に向かった患者家族

と、すでに東京などで開かれた他の会合に出席し、大阪で合流する患者家族時松派代表渡辺榮蔵さん（七十九）の計十九人。

水俣駅では出発の三十分钟前からそれぞれ白装束、スゲカサ、手甲きやはんに鈴鉦（れいしよ）の巡礼姿で集まった。水俣病市民会副日吉フミコ会長ら七人も患者家族たちの身を心配し前回に続いて参加。狭い待合室は巡礼姿と見送り人でいっぱい。駅構内にはご詠歌が流れた。

列車に乗るのは生まれて初めてという二女の雲子さん（七）をおんぶして総会に臨む同市月の浦田中アサ子さん（七）もは出発に当たって「オシメも大阪で用意してあるというのでごまごま参加することになりました。ごま前回のように行かぬもない。私たちはただ私たちのほんとうの気持ちを会社にわかってもらうために行々のですから、会社の人たちともしんみり話もしたい。大阪では若い人たちが張り切っているの聞いています。あんまり騒がれるとあの裁判などが心配です。もし雲子たちがいるために会場が静まるならばと強いて無理して連れて行くのです」と話していた。

列車は定刻通り到着、一行は支障団体などの見送りを受けて列車